

ニデック株式会社

契約の種類： アニュアルレビュー

日付： 2025 年 6 月 20 日

担当者：

Vipula Pandita, vipula.pandita@morningstar.com

本アニュアルレビューは、サステイナリティクス社が英語で作成した「Annual Review (June 2025)」の参考和訳として、ニデック株式会社が翻訳したものです。
英語版と本参考和訳との間で不一致がある場合は、英語版が優先します。

はじめに

2019 年 11 月及び 2021 年 3 月、ニデック株式会社（以下、「ニデック」）¹は、グリーン輸送に関連するプロジェクトへのファイナンスを目的とする第 9 回、第 10 回、第 11 回無担保グリーンボンド（以下「2019 年グリーンボンド」）²及びユーロ建無担保グリーンボンド（以下「2021 年グリーンボンド」）を発行し、それぞれ 1,000 億円及び 5 億ユーロを調達しました。2025 年 5 月、ニデックは、2019 年グリーンボンド及び 2021 年グリーンボンドを通して資金の充当を受けたプロジェクト（以下「選定された支出」）が、日本電産株式会社グリーンボンドフレームワーク（以下「フレームワーク」）³で設定された資金使途のクライテリアやレポーティングの指標に合致しているかについての評価を、サステイナリティクスに委託しました。サステイナリティクスは、2019 年 11 月にフレームワークについてセカンドパーティ・オピニオンを提供しています⁴。本レビューは、2020 年 11 月、2021 年 11 月、2022 年 6 月、2023 年 6 月、2024 年 6 月に行ったサステイナリティクスによるレビューに続く、ニデックの 2019 年グリーンボンドに対する 6 回目のレビュー、2021 年グリーンボンドに対する 5 回目のレビューとなります^{5,6,7,8,9}。

¹ 2023 年 4 月 1 日付で、日本電産株式会社からニデック株式会社に社名変更されました

² 2019 年 11 月、ニデックは、第 9 回、第 10 回、第 11 回無担保グリーンボンドを発行し、それぞれ 500 億円、300 億円、200 億円を調達しました。第 9 回債（500 億円）は 2022 年 11 月 28 日に償還され、第 10 回債（300 億円）は 2024 年 11 月 28 日に償還されました。また、2021 年 3 月には、5 億ユーロを調達したユーロ建て無担保社債を発行しました。

³ 日本電産株式会社グリーンボンドフレームワークは、こちらよりご覧いただけます：https://www.nidec.com/files/user/www-nidec-com/sustainability/environment/greenbond/img/NidecCorporation_GreenBond_Framework_jp.pdf

⁴ サステイナリティクス「日本電産株式会社 セカンドパーティ・オピニオン（2019）」は、こちらよりご覧いただけます：<https://www.sustainalytics.com/sustainable-finance/wp-content/uploads/2019/11/Nidec-Corporation-Green-Bond-Second-Party-Opinion-08112019-JAPANESE.pdf>

⁵ サステイナリティクス「アニュアルレビュー（2020）」は、こちらよりご覧いただけます：<https://mstar-sustops-cdn-mainwebsite-s3.s3.amazonaws.com/docs/default-source/spos/nidec-corporation-green-bond-annual-review.pdf>

⁶ サステイナリティクス「アニュアルレビュー（2021）」は、こちらよりご覧いただけます：[https://mstar-sustops-cdn-mainwebsite-s3.s3.amazonaws.com/docs/default-source/spos/nidec-corporation-green-bonds-2019-and-2021-annual-review-\(2021\).pdf](https://mstar-sustops-cdn-mainwebsite-s3.s3.amazonaws.com/docs/default-source/spos/nidec-corporation-green-bonds-2019-and-2021-annual-review-(2021).pdf)

⁷ サステイナリティクス「アニュアルレビュー（2022）」は、こちらよりご覧いただけます：[https://mstar-sustops-cdn-mainwebsite-s3.s3.amazonaws.com/docs/default-source/spos/nidec-corporation-green-bonds-2019-and-2021-annual-review-\(2022\).pdf](https://mstar-sustops-cdn-mainwebsite-s3.s3.amazonaws.com/docs/default-source/spos/nidec-corporation-green-bonds-2019-and-2021-annual-review-(2022).pdf)

⁸ サステイナリティクス「アニュアルレビュー（2023）」は、こちらよりご覧いただけます：[https://mstar-sustops-cdn-mainwebsite-s3.s3.amazonaws.com/docs/default-source/spos/nidec-corporation-green-bonds-2019-and-green-bond-2021-annual-review-\(2023\).pdf](https://mstar-sustops-cdn-mainwebsite-s3.s3.amazonaws.com/docs/default-source/spos/nidec-corporation-green-bonds-2019-and-green-bond-2021-annual-review-(2023).pdf)

⁹ サステイナリティクス「アニュアルレビュー（2024）」は、こちらよりご覧いただけます：https://mstar-sustops-cdn-mainwebsite-s3.s3.amazonaws.com/docs/default-source/spos/nidec-corporation-green-bond-annual-review-2024.pdf?sfvrsn=4b61dd0e_1

評価基準

- サステナリティクスは、以下の要件について、選定された支出とニデックのレポートングを評価しました
1. フレームワークで設定された調達資金の使途及び適格クライテリアと適合しているか
 2. フレームワークで設定された各資金使途カテゴリーに対する重要パフォーマンス指標（KPI）の少なくとも一つに則って報告しているか

表 1：資金調達のカテゴリー、適格クライテリア及び関連する KPI

調達資金の カテゴリー	適格クライテリア	インパクト指標
クリーン輸送	電気自動車向けトラクションモータの製造に関連する設備投資及び研究開発費	i. 製造したトラクションモータの年間出荷台数 ii. トラクションモータ導入による CO ₂ 削減量（ガソリンエンジンと比較）

発行体の責任

ニデックは、概要説明、充当額、インパクトを含め、プロジェクトの詳細に関する正確な情報及び文書を提供する責任を負います。

独立性と品質管理

ESG に関する調査・格付けを提供するプロバイダとして業界を牽引するサステナリティクスは、ニデックの 2019 年グリーンボンド及び 2021 年グリーンボンドによる調達資金の使途を検証しました。本契約の一環として、同社のフレームワークとの適合性の確認のため、ニデックからの文書の収集及び確認を行いました。

サステナリティクスは、ニデックから提示された情報と事実に依拠しています。ニデックが不正確又は不完全なデータを提供したことにより、本文書で示した見解、調査結果、結論が正確性を欠く場合、サステナリティクスはいかなる責任も負いません。

サステナリティクスは、評価プロセスにおいて最高の品質と厳密さを確保するためにあらゆる努力をし、審査結果については社内のサステナビリティ・ボンド・レビュー委員会（Sustainability Bonds Review Committee）が監督を行いました。

結論

限定的保証プロセスに基づき検討した結果¹⁰、すべての重要な側面において、選定された支出が、フレームワークの資金使途クライテリア及びレポーティング指標に適合しないと判断すべき事実は認められませんでした。ニデックは、サステナリティクスに対し、2025 年 3 月時点で、2019 年グリーンボンドの調達資金の 93.8%、2021 年グリーンボンドの調達資金の 86%が充当されていることを開示しました。さらにニデックは、2019 年グリーンボンドの残り 6.2%を 2026 年 11 月までに充当する予定であり、2021 年グリーンボンドの残り 14%を 2026 年 3 月までに充当する予定です。

調査結果の詳細

表 2：調査結果の詳細

フレームワーク上の要件	調査手順	調査結果	特定された過失 または例外
資金使途クライテリア	選定された支出を対象に、フレームワーク示されている資金使途クライテリアとの適合性を検証。	選定された支出は資金使途クライテリアに適合していました。	該当なし
レポーティングクライテリア	選定された支出を対象に、インパクトがフレームワークに示されている KPI と適合する形で報告されたかを検証。	ニデックは各資金使途カテゴリーの KPI の少なくとも一つに則って報告されました。	該当なし

¹⁰ サステナリティクスの限定保証プロセスには、正確な情報を提供する責任のある、発行体から提供されたプロジェクトの詳細に関する文書の調査が含まれます。これにはプロジェクトの説明、コストの見積及び実額、報告されたインパクトなどを含む場合があります。サステナリティクスはプロジェクトの現地調査は実施していません。

参考資料

参考資料 1：資金充当状況

表 3：2019 年グリーンボンドの充当状況

調達資金の使途の カテゴリー	適格クライテリア	調達資金の充当額（億円）		
		第 9 回無担保 グリーンボンド	第 10 回無担保 グリーンボンド	第 11 回無担保 グリーンボンド
クリーン輸送	電気自動車向け トラクションモータの製造に 関連する設備投資 及び研究開発費	500	300	138
充当額合計		500 ¹¹	300 ¹²	138
未充当額合計		0	0	62
調達金額合計		500	300	200

表 4：2021 年グリーンボンドの充当状況

調達資金の使途のカテゴリー	適格クライテリア	調達資金の充当額 （百万ユーロ）
クリーン輸送	電気自動車向けトラクションモータの製造 に関連する設備投資及び研究開発費	430
充当額合計		430
未充当額合計		70
調達金額合計		500

¹¹ 第 9 回無担保債の 500 億円は、2022 年 11 月 28 日に償還されました。
¹² 第 10 回無担保債の 300 億円は、2024 年 11 月 28 日に償還されました。

参考資料 2：報告されたインパクト

表 5：2019 年グリーンボンド及び 2021 年グリーンボンドにおける累計の報告されたインパクト¹³

調達資金の 使途のカテゴリ	報告されたインパクト	
	製造したトラクションモータ 年間出荷台数	トラクションモータ導入による CO ₂ 削減量 (t-CO ₂ /年) (ガソリンエンジンとの比較)
クリーン輸送	2019 年度：48,700	1,199,029
	2020 年度：83,273	
	2021 年度：226,248	
	2022 年度：337,844	
	2023 年度：284,451	
	2024 年度：339,487	
	合計：1,320,003	

¹³ この表は、2019 年グリーンボンドと 2021 年グリーンボンドにおける累計の報告されたインパクトを表しており、どちらの債券も、電気自動車向けトラクションモータの製造に対するファイナンスに使用されました。